

「シンポジウム鈴木泰恵先生の学問と業績を語る」

記録掲載に当たって

下 鳥 朝 代

二〇一九年秋九月二十九日に鈴木泰恵先生が逝去されてから六年となります。鈴木先生の遺稿集の出版（『狭衣物語／モノガタリの彼方へ』翰林書房 二〇二二・五）、追悼シンポジウムの開催（二〇二二・九）、電子版での追悼文集（二〇二三・三）と追悼に関していくつかの機会を設けることができましたが、一つの閉じめとしてシンポジウムの記録を掲載いたします。

助川幸逸郎先生には早くにシンポジウムでの記録をもとに論文化されたものをいただいていたにもかかわらず、活字化に時間をかけてしまいました。高木信先生、今井静江様にもご面倒をおかけすることになりました。また、今回に関しても、助川先生のご助力のたまものです。改めて御礼とお詫びを記させていただきます。

シンポジウムは二〇二二年九月二十四日（土）十五時二〇分より「コンフォート水道橋」にてオンライン中継との併用で開催されました。東海大学日本文学科と二〇二二年に東海大学の文化社

会学部文芸創作学科に着任された助川幸逸郎先生を中心に企画運営したものです。当日は台風十五号にともなう大雨で新幹線が運休となり、会場での参加を計画してくださっていた方々の中にも急遽オンライン参加に切り替えることになる悪天候でしたが、開始前から東京では天候が落ち着き、会場も窮屈なほどの参加者、オンラインでも多くの参加をいただくことができました。個人の人徳を改めて実感した会となりました。

パネリストとして鈴木先生と親しく、学問的にも共闘されてきた方の中から三人に登壇をお願いし、また、会の最後には鈴木先生の先輩でもいらっしゃる神野藤昭夫先生に参加者代表挨拶をお願いすることができました。プログラムは次の通りです。

プログラム

- 1 シンポジウム（司会 下鳥朝代（東海大学）
- 1 高木信（相模女子大学）
- 2 今井静江（翰林書房）
- 3 助川幸逸郎（東海大学）

2 参加者代表挨拶

神野藤昭夫（跡見女子大学名誉教授）

高木信先生と今井静江様には今回、快く原稿掲載を許可していただいたこと、原稿に手をいれていただけたことに改めて御礼申し上げます。助川先生は早くに当日の話をもとに論文化したものをいただいていました。掲載が遅れたことをおわびするとともに、鈴木先生と学問に対しての助川先生の真摯な思いが受け止められることを願います。

今年も学生の提出した卒業論文の中に鈴木先生のお仕事を本なりに誠実に受け止めたものがありました。また春休み前に古典文学の「語り」に関して学んでみたいのだが、と相談してきた別の学生に鈴木さんの遺稿集を貸したところ、大変に面白く、感動したので、ぜひ手に入れたいと思うと改めて相談されました。鈴木さんのお仕事時代を超えて若い人につながっていくことを何より願うの遺稿集、シンポジウム、文集だったのですが、その願いは少しずつでも実現して行っているように思います。

この記録がまた鈴木泰恵先生のお仕事への興味を誰かにかき立てるきっかけとなれば何よりありがたいと思っています。

（しもとり・ともよ 本学教授）